

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

文化交流の城再生プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府南丹市

### 3 地域再生計画の区域

京都府南丹市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

多くの住民活動が個々の範囲にとどまっていることから、地域内で集い連携した地域活動を進めるまでに至っていない現状がある。連携した地域活動は、本事業が主旨とする生涯学習を通じた地域コミュニティの拡大や活性化から生み出されるものであると考えられるが、この生み出しがみられない原因として、地域コミュニティ活動を市民に伝えたり、市民同士が交流したりする活動の象徴的拠点がないことが挙げられる。また、文化・芸術活動において、その発表や練習の場となる音響設備が整ったホール施設がなく個々での活動に余儀なくされていること、加えて、プロアーティストの演劇やコンサートが開催可能な場所など、文化・芸術・生涯学習の拠点が整備不足であったこともその要因であると分析している。この施設を再生することで、地域の賑わい創出につなげることができると考えており、市民の文化・芸術活動のニーズに応えることができる拠点施設の整備不足の解消が課題である。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

##### 【概要】

本市におけるまちづくりの方針とする『第2次南丹市総合振興計画』における重点テーマは<定住促進>であり、この具現化に向けた本市の戦略として第2期

南丹市地域創生戦略(令和2年3月策定予定)を位置づけており、この中に「南丹市への新しい人の流れをつくる」「誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる」といった基本目標をもって重点テーマへアプローチ＝関係人口の創出に取り組むこととしている。これらの基本目標は、少子高齢化とともに進む人口減少、さらにはこれを主因とした地域コミュニティの希薄化といった本市における喫緊の課題を背景として立てた目標でもある。

このたび、交付対象事業として是非採択を受けたい「園部文化会館再生事業」は、市民に愛されるお城風デザインの旧園部公民館を文化交流施設としての再生することにより、SDGsの基本目標11(住み続けられるまちづくりを)に則して地域コミュニティ活動の活性化と人、生涯学習と文化・芸術に関する課題を解決し、さらなるリーダーとなる人材育成、市民のニーズに応えた世代間の交流促進、市民と企業の交流、地域文化の振興による地域コミュニティ活動の活性化と地域の賑わい創出を目指すとともに、基本目標4「質の高い教育をみんなに」に則して質の高い文化芸術に触れる機会を子ども達に与える社会教育的価値のある施設とする。併せて、施設運営にあたってはSDGsの基本目標17(パートナーシップで目標を達成しよう)に則し、行政と市民で共に考え、取り組む形を目指したい。

### 【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020年度増加分 1年目	2021年度増加分 2年目
南丹市園部文化会館利用人数(人)	0	0	35,000
南丹市園部文化会館使用料収入(千円)	0	0	3,500
南丹市園部文化会館年間稼働率(%)	0	0	30

2022年度増加分 3年目	2023年度増加分 4年目	2024年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
1,000	1,200	1,500	38,700
300	450	750	5,000
8	10	12	60

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

文化交流の城 園部文化会館再生事業

##### ③ 事業の内容

旧来の園部公民館では演者・スタッフに動きの制約があり、ステージも狭いため、出演者の人数が30人を超えるような交響楽団や合唱団・演劇等の催しなどの、大掛かりな演目ステージ・公演ができない状況にあった。これを解消すべく南丹市園部文化会館大ホール棟の外周に、渡り廊下（図面上の表現であり、実際は舞台袖や舞台裏にあたる設備）を増築することで出演者待機スペース、備品設置場所等の拡張を行い、大規模な演目ステージ・公演に耐えられるよう劇場機能を向上させるものであり、ホールの劇場化を主とする施設の再生を通じて、当該施設が文化芸術のシンボリック拠点として、生涯学習を通じた「演じるひと」「観るひと」「支えるひと」の拡大とここに生まれるコミュニティーの形成の核となる。

なお、当該施設の再生に併せて例規改正し、令和2年度より南丹市園部公民館から南丹市園部文化会館に名称・用途も変更し、多様なニーズの利用に対応が可能とするため、南丹市のみならず近隣の市町における400席超の唯一の劇場機能を有する施設として、市域を超えた活用の可能性を秘めている。その本体工事に併せて、増加する集客を受け入れるための駐車場整備および大規模公演に耐えられる備品（舞台の奥行きを1.8m拡張させる折畳ステージ含む）の整備を効果促進事業として実施するものである。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

京都府中部地域の中心に位置する立地から本市だけでなく近隣市町からの観客や利用者が見込め、民間企業との協働による演劇・コンサート公演の開催、市内や隣接市町の文化・芸術団体の自主公演の会場として使用されることで安定した使用料収入と高い稼働率の維持が見込まれ、施設の維持管理費を賄うことができる持続可能な運営が可能となる。

##### 【官民協働】

文化から生まれる交流とまちの活性化を図るため、以下の役割により協働して取り組む。

（民間の役割）民間企業主催のプロアーティストの公演の誘致、地域団体とアーティストのコラボレーションイベントなどを開催

（行政の役割）市内の文化・芸術団体と企業のマッチングの調整役

##### 【政策間連携】

本施設の徒歩圏内には小学校・中学校が存在しており、劇場ホールの整った環境で小中学校の児童・生徒の芸術鑑賞並びに発表の場として活用することで地域の将来を担う児童・生徒の文化・芸術の学習環境を向上させる。また、高齢者や障害者が遠方に出ることなく文化鑑賞の機会を提供できることで福祉の向上にも繋がる。

##### 【地域間連携】

本市と亀岡市、京丹波町からなる京都府中部地域における唯一の400席超を有する劇場施設であり、広域的にニーズが高い本施設の整備により、文化・生活圏が同じ3市町の文化・芸術団体が集う場として本市だけでなく、近隣市町も含めた全体の文化・芸術活動の底上げを図ることができる。さらに、広域的な文化・芸術活動の拠点になることで、広範囲からの施設利用者の来訪により地域での購買が増加し、地域経済の活性にもつながる

ことが期待できる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

**【検証方法】**

南丹市地域創生会議により、KPIに対する達成度をもとに毎年度検証を行う。

**【外部組織の参画者】**

南丹市商工会、南丹市美山観光まちづくり協会、京都府指導農業士、京都府、京都府立大学、京都信用金庫、連合京都、南丹市情報センター、南丹市女性ネットワーク会議、市民公募委員

**【検証結果の公表の方法】**

公表は市ホームページ上での公表を基本とする。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】  
総事業費 182,011千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 地域コミュニティ活動の活性化と地域の賑わい創出事業

##### ア 事業概要

拠点施設を活用して地域のリーダーに活躍の場を提供し、市民ニーズに応えた世代間の交流促進、市民と企業の交流、地域文化の振興を図る。

##### イ 事業実施主体

京都府南丹市

##### ウ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。